

# 1 はじめに

芝公園は、増上寺を中心として、寛永寺を基盤とした上野恩賜公園と並び、江戸時代の遺産を現在に引き継ぐ歴史性・文化性の高い公園である。戦災等により、徳川家霊廟の一部などは焼失したが、武蔵野崖線の緑や重要文化財の三解脱門、旧台徳院霊廟惣門、有章院霊廟二天門など江戸期の建造物等が、往時の姿を現在に伝えている。

戦後は、日本の復興の象徴として東京タワーが隣接して建設され、また、1964年の東京オリンピック大会の開催に向け、増上寺に隣接する霊廟跡地では、民間のホテルが建設されるなど、増上寺とともに、国内外から多くの人々が訪れる観光名所となっている。さらに、近年では、愛宕山や六本木・虎ノ門地区など、周辺地域が開発されて拠点性が高まり、環状第2号線の整備などにより、更なる発展が期待できるエリアとなっている。

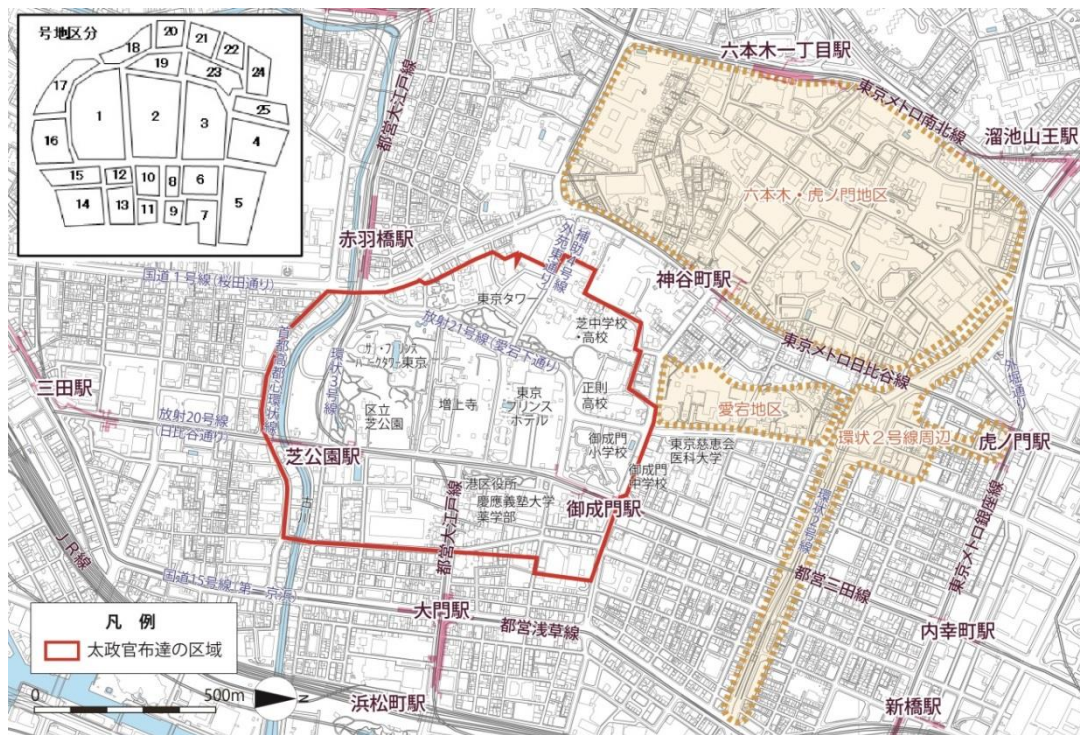
しかし、大規模な民間所有地において、約50年の間、民間のホテル利用がなされ、都市公園が供用されていない区域（以下「未供用区域」という。）となっており、歴史的な空間や公園としての一体性が弱いほか、公園と周辺地域との連携、歴史的な資源のまちづくりやにぎわいへの活用などの課題がある。

このため、民間のホテル等の建替えの動きなどを踏まえ、増上寺の空間と一体となる江戸東京の歴史・文化の再生や新たなにぎわいの創出などにより、芝公園の機能を早期に一層高め、活力と魅力を創出するまちづくりを誘導することが求められている。

そこで、芝公園を更に充実させるため、地域の将来像や周辺まちづくりとの連携などについて、関係者の共通認識として「芝公園を核としたまちづくり構想」を取りまとめた。

# 2 まちづくり構想の対象エリア

江戸時代から現在まで、歴史的資源を引き継いでいる太政官布達による芝公園の区域を、まちづくり構想の対象エリアとした。



まちづくり構想の対象エリア

出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）に太政官布達の区域を追記して掲載